

⑫ 公開特許公報 (A)

平1-160248

⑤Int.Cl.⁴
H 04 M 9/00

識別記号

府内整理番号
D-8426-5K

④公開 平成1年(1989)6月23日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑩発明の名称 来客報知機

⑪特願 昭62-320202

⑫出願 昭62(1987)12月17日

⑬発明者 深沢 実 大阪府守口市京阪本通2丁目18番地 三洋電機株式会社内

⑭出願人 三洋電機株式会社 大阪府守口市京阪本通2丁目18番地

⑮代理人 弁理士 西野 卓嗣 外1名

明細書

1. 発明の名称

来客報知機

2. 特許請求の範囲

(1) 親機と玄関子機とを有する来客報知機に於いて、親機玄関子機夫々にメッセージ入出力機能を設けたことを特徴とする来客報知機。

(2) 玄関子機の来客感知センサーにより来訪者を感じした時前記機能を作動させるよう電源切替えを行なう来客報知機。

3. 発明の詳細な説明

(1) 産業上の利用分野

本発明は来客を報知する来客報知機に関する。

(2) 従来の技術

従来の来客報知機は、来訪者が呼出ブザーを鳴らして在宅者に来客したことを知らせていた。そして、メッセージが記録できる機能の付いたものでは不在の時、来訪者がメッセージを入力できるようになっている。

然し乍ら呼出ブザーによる報知機では耳の不自

由な在宅者にはわからないとか、子供を寝かしつけた時等ブザーの音が邪魔になるとかの問題があった。

また、記録機能付の報知機、例えば記録手段としてメッセージを録音するような報知機においては記録機能が付いていることを来訪者が知らなかつた場合には、「もしもし」とか「誰々さん御留守ですか」という呼びかけの言葉しか録音できていないということがあり記録機能の役割を充分に果たしていなかった。

(4) 発明が解決しようとする問題点

そこで、音以外でも在宅者に来客のあったことを報知する手段を設ける。また、記録機能付であることを来訪者にわからせると共にメッセージを確実に伝えるようにすることである。

(5) 問題点を解決するための手段

親機と玄関子機とを有する来客報知機に於いて、親機、玄関子機夫々にメッセージ入出力機能を設け、該機能を来客があった時、即ち、来訪者を玄関子機に設けた来客感知センサーが感知した

時に作動するようにしたものである。

例 作 用

音以外にも来客を報知し、メッセージを伝えるようになる。

(a) 実 施 例

本発明の一実施例を、以下図面に基づき詳述する。

(1)は室内壁面に固定される親機で、該親機(1)に接続される玄関子機(2)とで本発明来客報知機(3)を構成している。

前記親機(1)の構成を第1図及び第2図より説明すると、前面にマイク(4)及びスピーカー(5)を有するインターホン用の電話機(6)が着脱自在に取り付けられている。

以下メッセージ入力機能について詳述する。

(7)はメッセージを入力するための静電容量検知方式を利用した文字認識入力装置で(7)072…はその入力キーである(日経エレクトロニクス1983, 11, 21参照)。

(8)は玄関子機(2)から入力されたメッセージを出

御する通信制御装置である。

(9)は呼出鈴(13)が押された時、親機(1)の通信制御装置(20)からの電波により作動する携帯用報知具で、ここでは電波により振動する振動器を用いている。

以下、動作について詳述する。

バックアップ電源(18)により呼出鈴(13)と、来客感知用赤外線センサー(14)と、メモリー(17)とが作動されている。

前記来客感知用赤外線センサー(14)が来訪者を感じると切替スイッチ(20)によりメイン電源(18)に切替わる。また、あらかじめ、家人が親機(1)の文字認識入力装置(7)より入力しておいたメッセージがメモリー(17)から呼び出されて、玄関子機(2)のメッセージ表示部(8)に表示される。

(a) 在 宅 時

「呼出鈴を押して下さい。」とメッセージを入力しておき、来訪者が来た時、玄関子機(2)のメッセージ表示部(8)に「呼出鈴を押して下さい。」と表示させる。

来訪者はその指示に従い呼出鈴(13)を押す。この

力するメッセージ表示部である。

(9)は玄関子機(2)に設けられたカメラ(10)により映し出される映像を出力する画像部である。

尚、画像部(9)の機能を前記メッセージ表示部(8)に持たせても良い。

次に前記玄関子機(2)の構成について第1図及び第3図を基に詳述すると、該玄関子機(2)はマイク(4)、スピーカー(5)、呼出鈴(13)及びカメラ(10)を有する玄関子機に、来訪者を感知するための来客感知用赤外線センサー(14)と、前記親機(1)と同様のメッセージ入力機能としての文字認識入力装置(7)と、メッセージ表示部(8)と、を具備したものである。

(10)はメッセージを記憶しておくメモリーである。
(18)は来客報知機(3)を作動させるメイン電源で、該電源の一部がバックアップ電源(18)に蓄えられる。

(20)は前記メイン電源(18)とバックアップ電源(18)とを切替える切替スイッチである。

(20)は来客報知機(3)の動作を制御するオペレーション制御装置である。

(20)、(23)は夫々親機(1)と玄関子機(2)間の通信を制

押し動作に連動して「ピンポン」と来客のあったことを音により家人に報知する。

そして、親機(1)、玄関子機(2)相互のマイク(4)、(11)とスピーカー(5)、(12)とで応対する。

また、在宅中でも子供を寝かしつけた時、また手の離せないような用事をしている時とかの呼出鈴(13)の音が邪魔となるような場合、すぐには応対できないような場合とかは、例えば前者の場合には、呼出鈴(13)の押し動作に連動して作動する携帯用報知具(20)としての振動器を振動させることによって、来客を報知する。また、後者の場合には、呼出鈴(13)を押す様指示した後「しばらくお待ち下さい。」と表示させるようとする。そうすれば、来訪者が応対がないからといって帰ってしまうということがなくなり、少し待っていてもらうことができる。

(b) 外 出 時

「ただいま外出中です。メッセージがありましたらどうぞ。」「文字認識入力装置をなどって文字等を書いて下さい。」と表示させる。

そして、来訪者は、その指示に従ってメッセージを入力する。

尚、この時ただ「外出中です。」と表示させるだけでは防犯上よろしくないので「自動警戒中です。侵入者は自動通報します。」というような言葉を入力しておいた方が良いと思われる。

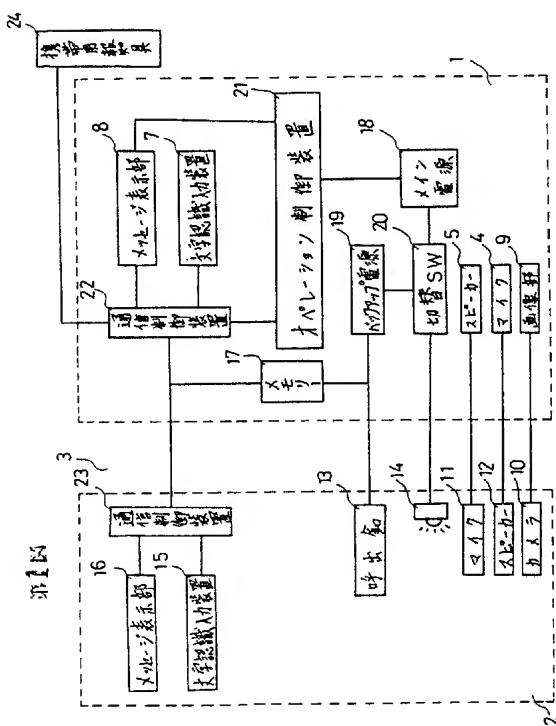
(ト) 発明の効果

親機と玄関子機とを有する来客報知機に於いて、親機、玄関子機夫々にメッセージ入出力機能を設け、該機能を来客があった時、即ち来訪者を玄関子機に設けた来客感知センサーが感知した時作動するようにしたことにより、来客のあったことを音以外でも家人に報知することができ、種々な状況に応じた対応が可能となった。また電源の切替を行なうことにより省電力化がはかれる。

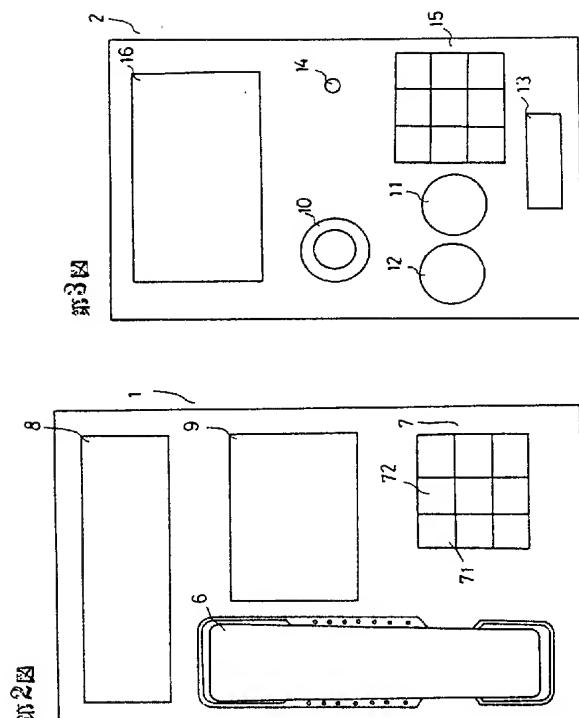
4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明來客報知機の回路図、第2図は來客報知機の親機の外観図、第3図は同じく玄関子機の外観図。

(1)…親機、(2)…玄関子機、(3)…来客報知機、



五



四

PAT-NO: JP401160248A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 01160248 A
TITLE: VISITOR ANNUNCIATOR
PUBN-DATE: June 23, 1989

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
FUKAZAWA, MINORU	

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
SANYO ELECTRIC CO LTD	N/A

APPL-NO: JP62320202
APPL-DATE: December 17, 1987

INT-CL (IPC): H04M009/00

ABSTRACT:

PURPOSE: To allow the annunciator to inform the presence of a visitor to the resident of the house provided with the annunciator by means of a medium in addition to sound medium by providing a message input/output function to a master set and a front door set respectively and operating the function when a visitor comes, that is, a visitor sensor provided to the front door slave set senses the visitor.

CONSTITUTION: When a visitor sensing infrared-ray sensor 14 senses a visitor, a changeover switch 20 is thrown to the position of a main power supply 18, a message which is entered from a character recognition input device 7 of a master set 1 by the resident is called from a memory 17 and displayed on a message display section 16 of the front door slave set 2. The visitor depresses a call button 13 according to the message. The presence of the coming of the visitor is popped in sound in interlocking with the depression to be informed to the resident and microphones 4, 11 and speakers 5, 12 of the master set 1 and the front door 2 are used for the communication. If the sound of the call button 13 is felt noisy, the presence of the visitor is annunciated by vibrating a vibrator as a handy annunciator 24 operated in succession to the depression of the call button 13.

COPYRIGHT: (C)1989, JPO&Japio